

期末評価	
学習状況の分析	○成果と▼課題
【第1学年】 ・ひらがなの書き順を意識しながら書いたり、字形を整えたりするなど、字を読みやすく書く意識をもたせる必要がある。 ・すべての児童が、数の大小の関係性を理解し、計算問題での物の多い少ないを理解できるようにする。 【第2学年】 ・気持ちや様子を表す言葉など、様々な言葉の表現を知り、使えるようにする。 ・漢字の筆順や使い方を身に付ける。 ・数の位やまとまりを意識して問題に取り組めるようにする。 【第3学年】 ・国語「書くこと」の領域において、語彙を増やしたり、自分の表現したいことを適切に表現したりする力を付ける必要がある。 ・国語、算数ともに文章の内容について正しく読み取る力を身に付ける必要がある。 【第4学年】 ・「話すこと・聞くこと」、「言葉・情報・言語文化」の2領域について力を伸ばす必要がある。 ・漢字の読み書きについて力を伸ばす必要がある。 ・算数では、四則演算の定着が必要である。	【第1学年】 ○文字の形を細かく指導し、繰り返し練習することで、丁寧に整った文字を書くことができるようになった。 ▼話し合い活動では、なかなか自分の考えを言えない児童がいる。引き続き、自分の考えを書いて、少人数で話し合う活動を通して、自分の考えを言えるようにしていく必要がある。 【第2学年】 ○叙述から様子や気持ちを考え、言葉の意味や使い方を確かめると共に、他の表現との意味や様子の違いを比較しながら考えることで、知っている表現の幅が広がった。 ▼筆算については位を意識して計算できている児童が多いが、長さや水のかさ、時計の学習において、単位換算に定着の差が見られる。 【第3学年】 ○新しく知る言葉の意味を調べたり、文章で使ってみたりすることで語彙力がつき、表現の幅が広がった。 ▼何を問われているのかを正しく理解させ、文章の読み取りの力をさらに伸ばしていく必要がある 【第4学年】 ○話し合い、考える場面をより多く設定したことで、「話すこと・聞くこと」について慣れ、考えを伝え合う様子が見られるようになった。 ▼漢字や四則演算の定着に関しては、復習時間の違い等によって大きく個人差が見られる。

【第5学年】

- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」の2領域について力を伸ばす必要がある。
- ・漢字の読み書きについて力を伸ばす必要がある。
- ・算数では、特に数と平面図形の単元での力を伸ばす必要がある。

【第6学年】

- ・国語「言葉・情報・言語文化」と「読むこと」の2領域について力を伸ばす必要がある。
- ・漢字の読み書き、言葉の使い方について力を伸ばす必要がある。
- ・算数では、特に数量と図形の単元で力を伸ばす必要がある。

【第5学年】

- 様々な教科で自分の考えや思いを伝え合う場面を多く取り入れることによって、課題を解決するための話し合いが深まるようになった。
- 算数では、授業の中で、関連のある既習事項に触れる機会をもつことで、学習内容の定着を図ることができた。
- ▼自分の考えを表現する場面では、考えはあるが、伝え方の構成がうまくできていない児童が見られる。自分の考えを表現する活動を通して継続的に指導していく必要がある。

【第6学年】

- 「読むこと」の指導の中で、意味が分からない言葉があった時に、その都度全体で確認していくことで、一人一人の活動の際にも、辞書で調べながら書いたり読んだりする児童が増えた。
- 解答に至るまでの過程を説明する活動を取り入れることで、順を追って分かりやすく説明する様子が見られるようになった。
- ▼公式や筆算の仕方など、既習事項が定着していない様子が見られた。既習内容と関連する学習の際には、定期的に振り返ったり、関連問題を解いたりするなど、それらに触れる機会を増やすことで学習の定着を促していきたい。